

日本型教育の海外展開(EDU-Port ニッポン)

令和5年度 予測困難な時代の学びを保障する学習手法の共有と海外展開に関する調査研究

1. 調査の名称・概要等

名称(30字以内)	非認知能力の育成に向けた特別活動の国際化と質保証に関する研究
目的(50字程度)	海外における特別活動の現地化と質保証のしくみを研究することで、グローバルな非認知能力の育成方法を解明する。
概要(150字程度)	エジプトの小学校で導入・実施されている特別活動(Tokkatsu)の現地化の実態を調査し、非認知能力(生涯にわたって必要な学びに向かう力)に与える影響を明らかにするとともに、質保証を目的とするディプロマ・プログラムを共同作成することで、国際的通用性と倫理性を備えたグローバル・スタンダードな日本型教育モデルを開発する。
対象国・地域	エジプト

2. 調査内容・実証活動及びスケジュール

	調査内容・実証活動	期待されるアウトプット
活動 ①	【エジプトの小学校での Tokkatsu の調査】 エジプト日本学校4校、公立学校(パイオニア校)4校において、授業の参与観察、学級会360度動画の分析、Tokkatsu 導入マニュアルの分析、教師・児童へのインタビューを行う。調査内容は、カスタマイズの特徴、話し合い活動の方法、個と集団の関係性、負の側面への対応、教師間の協働・同僚性、などである。	ナショナルな文脈を超えて発揮される特別活動の非認知能力育成機能を分析することで、日本型モデルの適用可能性を明らかにできる。また、多様性を認めない同調圧力、集団による個人のコントロールといった特別活動が及ぼしうる負の作用をエジプトがどのように認識し、乗り越えようとしているか考察することで、国際教育開発をめぐる倫理的課題に応答できる。
活動 ②	【Tokkatsu オフィサー研修・認証制度の調査】 教育・技術教育省、研修協力機関、県教育事務所において、「能力一覧」等の資料分析、研修の参与観察、受講者(TO)へのインタビューを行う。調査内容は、新制度導入の背景、効果、教師のニーズ、Tokkatsu の専門性、大学等との連携、などである。	Tokkatsu を担う教師の専門性の向上は日本でも課題となっており、共同研究によってこれまでにない意識啓発・指導力育成の方法を考案できる。それはエジプトの教師の実践力向上とともに、「逆輸入」によって日本における「特別活動推進教師」の構想につながる。さらに、非認知学習を対象にした授業研究(レッスンスタディ)の手法を構築することにも貢献する。
活動 ③	【Tokkatsu ディプロマの共同開発】 活動①、②と並行して、ディプロマ・プログラ	日本とエジプトが協力して Tokkatsu の研修コースを開発することで、日本型教育の体系

	ラムの内容と実施体制について、エジプト科学技術大学およびカイロ大学の研究者と協議する。	的な質保証に寄与する。また実践者・研究者主体の互恵的・継続的に学び合う「草の根交流」モデルを構築することで、ナショナリズムや覇権競争に陥らない教育トランスファーの実現に貢献できる。
活動④	【グローバルな非認知能力育成モデル開発】 調査結果に基づいて考案したプロトタイプ（学級会および教員研修）を、日本とエジプトの双方で実践して評価する。	国際的通用性と倫理性を備えた Tokkatsu、およびその質保証のしくみを開発することで、文化的・社会的コンテキストに柔軟に対応可能な非認知能力の育成モデルを構築できる。
活動⑤	【研究成果の中間・最終報告】 日本特別活動学会、世界授業研究学会(WALS)、最終報告会で研究成果を公表する。また、最終成果報告省を刊行する。さらに、活動の様子や成果をウェブサイトですぐ公開する。	研究成果を日本およびエジプトの教育関係者に還元するとともに、国際社会に発信することで、国際性を備えた日本型教育を普及させることができる。

スケジュール

	1 年目			2 年目			
	第二四半期 (7月～9月)	第三四半期 (10月～12月)	第四四半期 (1月～3月)	第一四半期 (4月～6月)	第二四半期 (7月～9月)	第三四半期 (10月～12月)	第四四半期 (1月～3月)
活動①	←→	◆調査 ←→	←→	◆調査 ←→	←→		
活動②	←→	◆調査 ←→	←→	◆調査 ←→	←→		
活動③	←→				←→		
活動④			←→	◆研修		←→	◆研修 ←→
活動⑤			◆学会		◆学会		◆報告会

凡例: ◆ = 研修など数日の活動 ←→ = 教材作成など長期にわたる活動

3. 調査の規模

本調査への参加人数	目標値	
	R5 年度中	R6 年度中
日本側の教員、職員、指導者および学生・生徒・児童・園児の数(人)	50	100
相手国側の教員、職員、指導者および学生・生徒・児童・園児の数(人)	100	200